

2026 年度

愛知学院大学大学院

文学研究科

宗教学仏教学専攻

一般入学試験問題

解答および解答例・出題の意図

博士前期課程 春季入学試験

一般入試 (2026年1月24日実施)

【専修科目】

仏教学仏教史学研究 (II)

〈採点時の評価ポイント〉

6題中3題の解答を求める

- (1)「初期仏教(原始仏教)の思想の特色」は、縁起や四諦八正道など、ゴータマ・ブッダ(釈迦)の教えを説明できているかを判定する。
- (2)「インドにおける仏教と他宗教の交渉」は、インドにおける仏教とヒンドゥー教(バラモン教)やジャイナ教などの他宗教との交渉を説明できているかを判定する。ヒンドゥー教が認めたカースト制を仏教が否定したことや、苦行を巡る仏教とジャイナ教の見解の相違、さらには後代の哲学的議論に関する思想史を理解できているかなどを総合的に評価する。
- (3)「日本を含めた東アジアにおける浄土教の展開」は、インドに始まる浄土教の思想が日本を含めた東アジアにおいてどのように展開したのか、その理解度を判定する。
- (4)「中国仏教における教相判釈」は、伝来した諸経典を中国独自の価値基準によって位置付け、そこから宗派が成立していったことを論じられているかを判定する。
- (5)「鎌倉新仏教の特色」は、栄西や道元の禅、法然や親鸞の浄土教、さらには日蓮宗や時宗などの成立について、歴史的背景とともに論じられているかを判定する。南都(奈良)仏教の鎌倉新仏教に対する対応も説明に加えられていれば評価する。
- (6)「仏教の死生観」は、死生学や生命倫理の観点から、仏教の死生観を論じられているかを判定する。

〈出題の意図〉

大学院において研究を遂行するための仏教(仏教学)についての基本的知識を備えているかを問う。総合的な学修度を判定するため、6題中3題を選択して解答する形式とした。

【外国語】

英語

〈解答および解答例〉

浄土教の興隆

平安時代の中頃、念仏、すなわち阿弥陀仏の名号を称えることによって浄土に再生（往生）するという考えが、比叡山において次第に広まりつつあった。また、この思想は、貴族階級を媒介として、徐々に民衆にも波及していった。

この運動は、地方において継続的に生じていた争乱と、それらの争乱は末法の到来と結び付いているという信仰とによって、影響を受けたものと考えられている。すなわち、後冷泉天皇の治世にあたる永承七年（1052年）は、釈迦牟尼の入滅から二千年に相当するとされ、翌年が末法の時代の開始を画する年であると信じられていたのである。

この結果として、人々はこの穢れた世界からの逃避を切実に希求するようになり、浄土への再生を志向するようになった。源信（942-1017）による『往生要集』は、とりわけ強い影響力を及ぼし、それ以降、念仏運動はさらに強化されていった。

法然（1133-1212）が出現し、浄土往生のためには念仏の専修のみが必要であり、他のいかなる修行も不要であると主張したのは、まさにこのような状況下においてであった。天台宗からの彼の独立宣言は、浄土宗の創始を画するものとされる。その弟子の中には親鸞（1173-1262）が含まれる。親鸞は、修行方法としての念仏に代えて、阿弥陀仏の慈悲によって我々の往生はすでに予定されているという信念に基づき、感謝（報恩）の実践としての念仏の機能を強調した。彼は浄土宗から独立した新たな宗派を創始し、それは浄土真宗（Jōdo Shin sect）、すなわち「浄土の真宗」と称された。

〈出題の意図〉

課題とされた英文に対して、内容を正確に理解でき、大学院の研究において必要とされる英文読解能力を身に付けているかを問う。

〈出典情報〉

出版社：東方学会（The Tōhō Gakkai）

著者名：Takasaki Jikido（高崎直道），Translated by Rolf W. Giebel（ロルフ・ギーベル訳）

タイトル：An Introduction to Buddhism

出版年：1987年